



## 校正証明書

依頼者名 フタバリカセイキ株式会社  
 住 所 茨城県つくば市要212番地  
 品 名 デジタル圧力計  
 型 式 センサ：305ICDIA52A1DB4D9QH 指示計：F-306  
 製造番号 センサ：R50324534 指示計：07-004  
 製造者名 センサ：ROSEMOUNT 指示計：フタバリカセイキ株式会社

校正項目 気体流量  
 校正方法 JQA校正要領書による(文書番号 E314618)  
 校正結果 次頁以降のとおり  
 校正年月日 2018年8月27日  
 校正実施場所 愛知県北名古屋市栗原寺山前53番地の1  
 一般財団法人 日本品質保証機構 中部試験センター  
 併設試験所 計量部気体校正室

校正結果は以上のとおりであることを証明します。

2018年8月28日

愛知県北名古屋市沖村沖通29番地  
 一般財団法人 日本品質保証機構  
 中部試験センター

所長 田中 英



この証明書は、国内または海外の国家標準にトレーサブルな標準器により校正した結果を示すものです。表面による承認なしに、この証明書のカラーコピー及び一部分のみを複製して使用することを禁じます。日本品質保証機構 中部試験センターは、A2LA (American Association for Laboratory Accreditation) によってISO/IEC 17025-2005に基づく校正機関として認定されています。

## 校正結果

校正圧力値 (Pa)	表示値 (Pa)		拡張不確かさ (Pa)	包含係数 $k$
	昇圧	降圧		
50.00	50.01	49.94	0.54	2
100.00	100.01	99.99	0.54	2
150.00	150.26	150.18	0.54	2
200.00	200.21	200.07	0.54	2
300.00	300.10	300.09	0.55	2
400.00	400.32	400.24	0.55	2
500.00	500.38	500.38	0.55	2
600.00	600.33	600.31	0.55	2

拡張不確か率は、上記の包含係数 $k$ から決定したもので、約95%の信頼の水準をもつと推定される範囲を定める。

## 1. 校正条件

- ・ 校正は標準器との比較測定により実施した。
- ・ 圧力値は絶圧であり、窒素ガスを圧力媒体とした。
- ・ 校正開始前に予備圧試験を2回行った。
- ・ 測定は昇圧・降圧の往復を3回行った。
- ・ 昇圧時、降圧時それぞれについて、上記3回の平均から、表示値を算出した。
- ・ 大気開放時にゼロ点調整を行ってから測定を行った。
- ・ 測定後のゼロ点の平均値は、0.00 Paであった。
- ・ 圧力保持時間は30秒とした。
- ・ ライン圧力は、気体絶対圧力で101 kPaであった。
- ・ 電源はAC 100 Vで、2時間以上の通電後校正を行った。
- ・ 校正はセンサーを垂直に立てた状態で行った。
- ・ 表示値は、圧力導入口の高さを基準レベルとした値である。
- ・ 校正を実施したときの校正室の環境条件  
 温度：22.2℃～22.4℃  
 相対湿度：55%～57%  
 大気圧：1011 hPa～1012 hPa

## 2. 使用した標準器等

微圧用圧力コントローラ	(型式) 7250LP	(製造番号等) 69321
-------------	----------------	------------------

特記事項：校正品の受領後、ゼロ調整を除き修理及び調整を行わず校正を実施した。

以上